

はじめに

この度、「ホスピス・緩和ケアに関する意識調査2023年」を公表できることになりました。

前回の調査（2018年）から5年が経過し、ホスピス・緩和ケアを取り巻く環境や社会環境も変化しつつあります。今回の調査を通して、高齢化、多死社会が抱える課題に関して重要な知見が得られたのではと考えております。

当財団は、ホスピス・緩和ケアに関する調査・研究や人材育成を行うことにより、ホスピス・緩和ケアの質の向上に寄与することを目的として活動を続けております。同時に社会からの理解や評価、期待を大切にする姿勢も重視し、さまざまな媒体を通しての情報提供を行っております。本調査は、その一環としてホスピス・緩和ケアや死生観に関する社会における客観的な事実を確認し公表することにより、当財団がより貢献度の高い成果を達成することを目的として実施されたものです。

本調査は、当財団事業委員会で企画され、シニア生活文化研究所代表理事の小谷みどり氏、関西学院大学教授の坂口幸弘氏、および当財団事務局で構成された実行委員会で実施されました。

今回の調査では、人生の最終段階で受きたい治療や、その意思決定をだれが行うかといった過去の質問項目を継続し比較するほか、「人生100年時代」の人生観に関する質問項目が加えられ、時宜に合った調査になったのではと思います。

本調査が目的に合ったものになっているかどうかは、皆様の評価を待つのみですが、それらの建設的意見を踏まえて今後も、この意識調査をより充実した、意義深いものに高め、広く社会へメッセージを発信していきたいと願っております。

2023年3月

公益財団法人

日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団

理事長 柏木 哲夫